

運動会アンケート 集約

研究部メンバー集約

質問1. 運動会は開かれるか(開かれたか)

質問2. その結論までの経緯

○ (開かれた) … 8校

- ・ 市教委からの通達… 4
- ・ 体育部などから提案… 2
- ・ 職員会議で検討… 1
- ・ 不明… 1

× (開かれない) … 3校

- ・ 職員会議で「中止」を決定… 2 (学校の実態も関係している)
- ・ 市教委からの通達で決定… 1

△ (代替行事) … 2校

- ・ 2校とも、市教委から「運動会は中止」との通達
- ・ 1校は、市教委から「運動会に代わる体育的行事は実施可能」との通達で実施を検討。
- ・ もう1校は、教師自身が提案し、職員会議で検討後に実施が決定。

< 共通項 >

- ・ 市教委からの通達を待つ学校が多い。
世論・保護者への対応のためもあると考えられる。
その場合、職員からの反対意見はあまり出ない様子がある。
- ・ 決定の流れが似ている。
市教委・校長会→体育的委員会(校内の検討部会)→職員会議→決定
- ・ 職員が提案している学校は少ない。ほとんどがトップダウンで検討・決定。

< 相違点 >

- ・ 職員全員で検討されず、一部の教師で検討・決定している学校もある。

		開催	経緯	市教委からの指示	校内での討議
1	奈良市 (古川)	△	市教委から中止の指示。代替行事について職員会議で決定	中止の指示	代替行事の実施決定
2	河内長野市 (佐々木)	○	校長から教員へのアンケート調査の上、職員会議で決定	最低限の約束事	約束事をもとに話し合い、実施決定
3	吹田市 (安武)	○	6年担任の体育部から実施したいとの声。職員会議で決定		「させてやりたい。」という声に賛同。 前から決定していた午前中のみの実施で、特別時間割は組まない。参観あり
4	府立堺支援 (奥)	×	職員からの意見を募った結果、中止という意見が多数。その後、病院と管理職との討議の結果、中止が決定。	感染対策の上、実施可	感染不安から中止の声が多数。 職員会議で検討する機会がなかった。
5	枚方市 (中村)	○	市教委から実施可の通達があり、実施が決定。	走競技とリレーの実施	
6	枚方市(菅)	○	市教委から実施の通達があり、実施が決定。	蜜を避ける(団体中止) 個人走の実施と旗の使用	
7	枚方市 (大西)	○	7月に市教委から実施の通達。配慮事項をもとに終礼で決定。	競技にまつわる様々な配慮事項	団体演技の方が感染リスクを抑えられるということで、全学年演技実施。
8	府立佐野支援 (辻内)	×	校内の会議で決定。スケジュール的に難しいとの判断。		秋開催を検討したが、スケジュールが過密になるということで、中止決定。 授業参観を体育で実施することに。
9	岸和田市 (梅山)	○	市教委からの中止の通達がなく、グラウンドも広いので実施が決定。		
10	摂津市 (下村)	○	規模を縮小しての実施が決定。		団体競技を削り、式は時間短縮
11	豊能町 (楠橋)	△	町教委と校長会により中止が決定。しかし、感染対策をしながらの「体育学習発表会」の実施が決定。(後に「ミニ運動会」に改名)	中止の指示	全校単位で体育学習発表会を取り組むことが提案され、多くの教員が前向きな姿勢。

1 2	橿原市 (日名)	×	市教委からの通達。(保護者向けの文書にて)	中止の指示	
1 3	東大阪市 (笹田)	○	運営委員の教師と管理職によって実施が決定。討議内容は不明。		全教職員の声ではなく、一部の教員と管理職の討議により、実施決定。

<感想>

- ・コロナ対策が地域によって違うことから、さまざまな対応に別れたのではないかと思います。実際、「消毒をする」「密を避ける」ことに考えが集中し、運動会そのものの議論に至らなかった。
- ・市教委からの通達を待つ学校が多いが、本当は学校独自に行っても良いものはず。「感染者が出てしまったらどうするのか」など、世論や保護者を気にして、学校独自の行事を考えていくこと自体が難しくなっていると感じた。
- ・その中で、「子どもたちにやらせてあげたい」と、子どもたちの学びを充実させたいとの思いから提案しようと努力した学校があることは、救われる思いがある。それを実現するために、教師の同意を得たり、職員の関係作りを行ったりしているのは、今後の行事検討の参考になると思う。
(分析…古川、大西)

質問3. アンケート1(運動会の可否)・2(経緯)における職場での賛否両意見

- ・まず、分析にあたって、13の回答を、回答項目1と関連させ、下表を作成した。右端にあるキーワードは、記述された文から、大瀬良の主観で抜き出したものである。(大瀬良)

回答 番号	開催の可否 ○：開催 △：代替 ×：中止	職員間での議論の中心となる、キーワード
1	△	仕方ない、運動会は発表の場
2	○	コロナ対策
3	○	教師主導、教師間の横並び(主義)
4	○	感染対策、密を避ける
5	○	密を避ける
6	無回答	密を避ける
7	○	子どもファースト、感染リスク、授業時間数確保、練習時間
8	×	学校に多くの人を集めてよいか(密を避ける)
9	○	練習時間
10	○	コロナ対策
11	△	練習時間、授業時間数
12	×	市教委通知
13	○	運動会が前提

(ここまでの分析、表作成 大瀬良)

<コメント分析> (下線 楠橋)

~~~~~ 職場の雰囲気や感触、つぶやき、意見など  
===== 決定事項  
----- 分析者の意見や提案、考えなど

奈良 古川

職員全体としては、今年は仕方がないという雰囲気であった。個人的には、学年ごとではなく、複数学年合同の行事にすべきという意見を持っていた。

協議の中で、「体育的行事」というより、「学年の参観行事」という面が色濃くなっていったので、「運動会の代替行事ということであれば、運動会で学ぶことを同じように学ばせることが必要なのではないか。高学年に羨望の眼差しを向ける下学年の子どもたち、低学年の姿をほほえましく感じる高学年の子どもたち、そのような姿こそ、運動会を実施する意義ではないか。」と意見を出した。

しかし、雨天時は体育館で実施することが大きな理由とされ、学年ごとの実施に決まった。(雨天時は延期すればという案も出したが、賛同は得られなかった)「運動会は発表の場」として捉えている教員が多いという印象を受けた。

南河内 佐々木

- ・コロナ対策としての意見  
開会式や体操の仕方、児童席や保護者席、
- ・実施することにはおおむね賛成
- ・午前中実施。徒競走と団体演技を行う。
- ・135年と246年の演技・競走を固めて、保護者を前半、後半で入れ替える。
- ・児童は全学年の演技を見ることができる。

豊能三島(吹田) 安武

上の話し合いが「団演をどうするか」「団競だけにするか」に終始していたので、「本校の運動会で子ども達につけたい力は何か？」という質問を出した。「運動会でつけたい力」という発想がなかったようで、それに納得する意見も出たので、「運動会だからつけられる力の一つに『自治』の力があるのでは」「例えば、今話し合ってる『団競か団演か』を子どもに選択させるのも一つではないか」「低学年でも、自分たちで選択したものができるとなれば、よりやる気になるのでは」と畳み掛けたが、イメージや見通しが持てない、どうやっていいか分からない、ので「今年は団競で統一した方がいいのでは」といった横並び的で教師主導の方が見通しが持てるということでこちらに決まっていた。職会では、そうした議論はなく「団競で統一」「教師主導型」の原案が出されそのまま決まっていた。

豊能三島(豊能) 楠橋

「ほとぼりが冷める」ではないが、徐々にコロナ対策などが具体化してくる中で、制限も緩んできたように思われる。さらに、いざ蓋を開けてみれば、運動会開催(制限付きもふくめて)が6割以上という世情もあり、「何とか子どもたちに運動会をさせてやりたい」という気持ちの教師が多かったと思われる。ただ、一部に「いまさら、ダンスなど表現は大変」「時間が運動会の時の練習のように奪われるのではないか？」という声はあった。そこで、提案は、「体育の時間でできる範囲」という条件を付けて行った。幸い今年度は隔年で行われる「学習発表会」がなかったため、運動会の代替案も受け入れられたのではないかと思われる。

豊能三島(堺支援学校大手前分校) 奥

大多数がコロナの感染拡大不安から運動会は「密になる」と決めつけ、反対の意見が相次いだ。4月当初から個人的に何人かの先生方に話を聞いたが「今年は中止だろう」と話してた人ばかりだった。「条件を整えれば実施できるのではないかと意見を述べている人もいたが、学校再開が遅れたこと・体育館など広いスペースを確保できる場所がなく密を避けられないこと・病院内にいる子どもたちに無理をさせてはならないこと・教師の準備する時間が取れないこと、大多数の教員が実施について反対しているなどを理由に「中止」となった。ただし、これらの意見は会議の場で出されておらず(会議も密になるとして、短時間で終わらせるために、運動会が議題となる機会が設けられず)、アンケート形式の書式に回答した教員のものである。(教師全員がアンケートに回答したわけではない)

\*念のため、別紙資料として、本校の教職員に実施した運動会及び校内スポーツ大会の実施に関するアンケートの集約結果を添付します。黄色の部分

北河内 中村

職場では、団体演技はしたくないという(蜜になるから)意見が多数あったが、校長判断で、走と団体演技をするということに決定した。

その、するかしないかの話はなんとなく盛り上がったが、この時期にする意味とかは話し合われなかった。

北河内(枚方) 菅

密を避けるということや組体操禁止ということを受けて、7月中旬(?)、体育部から時間短縮と密回避のために分散開催の案(各学年ごとに運動上に出る、残りの学年は教室待機。や1・3・5年と2・4・6年などに分けて開催する。など)が出された。それをうけて、5年が「南中ソーランをしたい」と言い学年で団演か団競を選んで行うことになった。ふわっと団演か団競を各学年で選ぶことになったが、それ以外はいかに「密を避けながら運動会をするか」が目標のような話し合いだったのに違和感を持った。

目標が「密を避けていかに運動会をするか」ではいけないと思い、体育部にも校長にも「今までの縮小版のような、あれもこれもできなかった運動会をしては、6年生はじめ子どもがもたない。子どもたちにこの中でも何ができるか問いながら新しい運動会を創っていきましょう。」と提案し、2回目の職員会議で提案した。

北河内(枚方) 大西

○職場は、子どもたちファーストの考えの職員が多いように感じる。(2. で書いたように)

○できるだけ、子どもたちにやらせたい。やりたいという気持ちを大切にしたいという職員が多いが、感染リスクを考えるとできないことがどんどん出てくるので、その中でどうすればよいのか、悩んでいる。

○管理職は、感染リスクとかはあまり深く考えずに、自分がやりたいから「団体演技を入れたい」という考え。

職員と管理職では、意見が合わない感じ。管理職は保護者が…という視点が大きいように感じる。

○もう一つの問題は、授業時数の確保。枚方市は、市教委から授業時数の確保をうるさく言われているので、それを受けて、本校では練習時間は、走・団体演技を合わせて13時間と決めている。

それに対しての異論は出なかった。

中河内(布施) 笹田

全教職員に対してはすでに運動会を行う前提で話進んでいた為、賛成や反対意見は出なかった。  
ただ、例年とは違う形で行う運動会に戸惑う教職員も一定数おり、開催に消極的な意見も見受けられた。

中河内(柏原) 日名

市教委の通知であるため、だれも何も発言しなかった。私自身は、「教育課程の編成権は各学校にあるため、子どもたちの成長を考えて、新型コロナウイルスに配慮した形の運動会を考える余地はあるのではないか」と発言したが、論議にはならなかった。

泉州(支援学校) 辻内

授業参観の内容を、運動会のように表現活動にするのか論議があったが、体育授業としての年間計画もあり、内容は各授業担当に任されることとなった。ただ、「学校に多くの人を集めていいのか」という懸念もあった。日程その他については、「仕方ない」という合意があった。

泉州(岸和田) 梅山

・学年2種目の決定を、学年任せにするのは反対という意見が多かった。  
・特設時間割は設けずに運動会の練習をする(週5時間)ので、指導が難しい低学年(1~3年)は表現なし、高学年(4~6年)は団体競技なしという話になった。

(ここまでの文章分析 楠橋)

<考察> (文責 大瀬良)

・回答された学校は、何かしらの形で実施する方向で議論を進められた様子が窺える。  
・しかしながら、その論議の中心は、「コロナ(感染症)対策」であり、そこに収斂されている感が否めない。  
・前代未聞の状況下を鑑みれば、致し方ない側面はあるが、運動会の持つ文化的側面、子どもと教職員で、協同しながらどのように運動会をつくっていくのかといったところに主眼が置かれていないところが、危惧される(といいながら、勤務校も一緒ですが)。  
・一方で、内容はどうであれ、手探りで新しい形の運動会をつくったという状況が生まれていることも事実。ある意味、教職員の中に内在している、ステレオタイプの運動会の価値観と、今年度に新たに生まれた運動会の価値観が、ぶつかり合う中で、運動会とはどうあるべきか?そもそも運動会とは何か?といった議論を行う土俵が、生まれているのではないか(もしくは生み出す)とも感じる。

<考察> (文責 楠橋)

①論議の中心は、「密」をいかに避けるか?を中心に「保護者」の参加の仕方、午前中開催、種目・演目の中身(競技にするか演技にするかなども含む)などが決められており、やや子ども不在という印象を受ける。「これも『コロナ』なので仕方ない」という非常事態であることが理由となっている。しかし、運動会開催の時期や午前中開催などの流れは、一定できつつある背景もあり、「運動会とは?」は問われている感覚はなく、同志会員もそこに言及していない事態がある。

②したがって、こういう緊急事態という状況下で、「そもそも」論は受け入れられず、いかに運動

会の反省などが形骸化しているがわかるのではないか？

③教育委員会直轄の命令的な指示があるところ。ないならないで、「どうして上から指示がないのだ？」という声も聞こえてくる。カリキュラムは、学校で計画決定する、ということ自体も形骸化しているし、そこへの異論も職場からなかなか出てくれないのでは？

## 質問4集約

### 質問4.「質問1～3」を受けてのアンケート回答者の考え(不安・不満・疑問等)

#### 1. 回答の傾向

○回答した学校の半数は運動会が開催されたが、その決定にあたっては学校内や教職員間で十分な議論をしたうえで開催されたという学校はなかった。

○運動会が中止になった学校の中には教育委員会が学校に中止の通知を一方的におこなったところもあった。

そういった今年度の異例づくめの状況の中、回答者がいま思っていることや現場に感じていることの共通点を挙げたい。

#### 2. 共通点

★特に多かった意見としては、「学校現場で時間をかけての十分な議論ができていないこと」への不満である。教育委員会からの運動会開催についての制約・制限の通知を受けて、それを真摯に受け止める(?)管理職や教職員が全体の半数を占めてしまうと、周りの教師もその空気に飲み込まれざるを得ないようである。

★上記のような状況下だからこそ、あらためて運動会の意義について議論しようと周りに投げかける教師もいるが、日々忙しい学校現場ではその議論をする時間さえも無いという現実が突き付けられていることがうかがえる。(笹田)

各アンケートを集計して、何に対して不満や疑問などを感じているかをまとめてみた。

重複する部分もあるが、大きく分けて3つに分かれるのではないかと思う。

- ① 教育委員会など学校外の組織からの意思決定や影響についてである。学校としては内部でどうしようもないこととして「あきらめの雰囲気」になってしまったり、「学校のことなのに学校で決めることができない」というもどかしさを感じている様子が見られた。
- ② そうした外部からの「介入」に近いような影響があり、学校としての話し合いの体制や、組織としての在り方に関する不満なども多数あった。そもそも議論する場がなかったり、多くの人の意見に流され「仕方がない」と結論付ける雰囲気があるなどの記述が見られた。自由活発に意見を出し合い、その議論した内容まで問い直すことがない実態が浮かび上がった。ただし、そうした事態に教育現場の「忙しさ」が拍車をかけていると思われ、話し合う「余裕」すら生まれていないということも明らかになった。
- ③ こうした学校への「介入」のような影響や学校の組織としての在り方の中では、十分に「運動会」とは、そもそもどんな意味や意義があるのかというような位置づけや意味付けができずにいることが記述されていた。このアンケートを回答したのは、同志会会員だということもあるのだろうが、13名中9名の方が、「運動会」の本質に関する思いを述べていた。とりわけ、運

動会を「表現の場」として捉えることに違和感を感じているような意見が3名ほど見受けられた。「学習の場」として運動④をどう位置付けていくか、そのことを記述している箇所もあった。

- ④ 以上のことを踏まえると、「自分たちで運動会のことも含めて学校行事を決めることができないもどかしさ」があり、さらに、「決めることができない」上に、話し合い議論する場も十分に保障されず、議論の内容まで吟味することがない「学校体制の課題」に関しても不満や思うところが多いように感じられる。そのため、「運動会の本質・価値・意義」などに関しても話し合うことができておらず、考える余裕がなくなっているのではないか。その原因の1つとして教育現場の「忙しさ」もあると思うのだが、学校で行うことを問わず鵜呑みにしている現状もあるのではないだろうか。今回のアンケート（質問4）から

◎「子どもたちが学校行事（運動会）の主人公として創造する」以前の問題として、教員同士でも主体的な話し合いがなされていないという現状が浮かび上がった形だ。

（文責 奥）

### 3. 相違点

★共通点で挙げた、「時間的制約によって十分な議論の場が持てない」ということについて付け加えると、仮に時間的制約が無いとしても、学校現場によっては教職員の意識の違いを感じているようである。

★いくつかの学校では、話し合いの中身が運動会をどうこなすか、今年度は教師が一定の方向性を示すといった意見が出ていたようである。（文責 笹田）

★教育行政に対する不満か、運動会の本質を話し合う体制（土壌）ができていない教育現場に対する思いか、などアンケートに抱えていた、思いや不満の矛先がいくつかの段階に分かれている。しかし十分な話し合いはなされていないことは、どの学校であっても同じ状況にあるようだ。あえて相違点があるとするならば、それでもなお、子どものことをどこまで考えているのか、運動会を子どもの視点から捉えることの必要性にまで言及している人とそうではない人がいた。教員同士の話し合いの中心にどこまで子どものことを位置付けているのか、子どもにつけたい力や運動会というものをどのように学習にするのか、こうしたことも数名の先生は言及されていたが、単に教育行政や忙しさへの言及のみになっている部分も見られた。（文責 奥）

### 4. 集約してみた感想

アンケートを読んでまず感じたことは、多くの学校現場で「運動会」を行う意義やその価値についての議論すること自体が非常に難しいということ。こんな状況下だからこそ、子どもたちにとって大事な行事と位置付けて、成長するきっかけとして「運動会」に取り組みせたいという強い思いを持っている同志会会員が多数いるが、それを阻むかのごとく、教育委員会や管理職からの一方的な通知によって多くの会員がやるせない感情を抱いていることがアンケートの内容を通して痛烈に伝わってくる。

また、議論や話し合いを促そうとしても、時間的制約や周りの教職員との考えの相違や温度差から議論にまで行きつかないことも多くの学校現場で起こっていることに学校単位の問題ではないようにも思えてくる。

しかし、今回のこの「異例」の事態によって、このような議論が生まれ出したこと自体は何かの変化の機会になるのではと感じている。私の学校では、10月初旬に例年のような形と異なるが運動会を開催したところ、多くの教職員から様々な意見が出た。競技の在り方や子どもたちの行事に対する取り組み姿勢など、例年通りの運動会ではおそらく出なかったであろう意見がでたことはよ



かったと思う。

今回の件をきっかけに、時間的制約や学校独自の文化性などもあるかと思うが、運動会の意義や価値についての議論が広がって、その議論が方々の学校現場で「当たり前」できるようになればと感じている。(笹田)

今回、コロナウイルス感染症拡大防止の策として「運動会」の中止・縮小が言われ続けてきた。しかし、運動会に関しては、どこかのタイミングで、こうした議論にぶつかる可能性があったのではないかと考える。ICT・ギガスクール構想などが取りざたされる現状の中で、「より効率的に」「より速やかに」という視点のみがクローズアップされすぎているような気がしてならない。そうした時に運動会の本質論も含め、みんなで議論し、「運動会を創り上げていくこと」はその過程も含めて、それ自体に意味のあることである。これを避けては、「運動会」について語るができない。ただそうした過程は「非効率的」とみなされ、「運動会」そのものの形骸化につながる可能性が高いと考える。「運動会」の本質を考えずして、今回のようにコロナウイルス感染症の拡大防止という名目で、「運動会」の中止・短縮が行なわれたことに対して異議を唱えるということができたのだろうか。運動会を今までの前例踏襲した形や、なんとなく例年通りにしているということであれば、「運動会」の果たす役割を各教員が意識することなく、「仕方がない」という方向に無意識のうちに進んでしまいかねない。「運動会とは」というそもそもの部分を考えることこそ、地道なりとも、今最も求められていることなのではないだろうか。

運動会の歴史をひもとくと、中瀬古(2013)は、運動会を「外国に見られない独自の大衆的行事」だと見なしながらも、「当初は富国強兵が目的として導入された」と指摘している。こうした背景があり、戦後一時は中止になったものの、軍事色を減らして復活している。こうした流れの中には、子どもの思い、保護者の思い、教師の思い、たくさんの人々の思いがあったと考える。こうした全ての思いを汲み取りながら、運動会を実施することは容易ではない。けれども議論し、試行錯誤する中で運動会というものが創られていくのであれば、その創っていく過程こそ大切にしたいものであるし、それが「自治」や「民主主義」の土台となっていくのではないだろうか。それはコロナウイルス感染症の影響に関わらず、これまでもそうであったように、これからも大切にしていける必要があるのだと思う。そうしたことを踏まえれば、今回の運動会の実施方法や内容の決め方に対して不満や様々な思いが生じてくるのは必然的なことだと思うし、もう一度「運動会」そのものがなぜ行なわれてきたのか、その意義や価値について職場で話し合う必要性が改めて浮かび上がってきたのだと感じる。

今回同志会全国常任委員会が出されている提言の中で「学校行事(運動会も含めて)を未来の主体者、主権者としての基礎を育む場」として捉えていることに関しては同感である。加えて、「企画の段階から子どもの意見表明権を保障」することを「重視」することは必要不可欠だとも思う。ただ付け加えるとすれば、現状は「子ども」だけでなく、「教師」の意見表明もなされない(又はさせない)ような状態がある。こうしたことも直視し、「議論し、意見を表明できる機会をしっかりと創っていく」ことがまず求められるのではないだろうか。そのためにも、そもそもの段階で「運動会の果たす役割やその意義」を歴史的にも、現在の状況と照らし合わせて、教員一人ひとりが学び、自分の考えとして持っておくことが不可欠だと考える。

今回多くの学校の先生の思いや不満をまとめるうちに僕自身もそこまで深く「運動会」というものに対して考えたことがなかったという現実を知り、これから学び、考えて、議論し合いたくなった。(奥)

\*参考文献 中瀬古哲「子どもの発達と運動会」(かもがわ出版)、2013年

## 質問5. 運動会の価値とは？

### (1) 共通点

#### ① お祭りの価値

- ・ 普段とは違うお祭りの空気共有
- ・ 当日、学校みんなで盛り上がる「祭り」のような雰囲気。
- ・ お祭り要素の非日常を味わう。
- ・ 行事を楽しむ。
- ・ おまつり
- ・ スポーツ元来の目的である「あそび（競戯）」を体感できる場。お祭りの要素を子ども、教職員、地域が共有できること。（ここに、異学年との交流も含まれる）

#### ② 自治の力をつける

- ・ 自分たちで作り上げるもの。
- ・ 「自治の力」「地域との共同」が前面に出された取りくみ過程を大切にした運動会実行委員会がメインとなり、各係や学年・クラスの要望を聞きながら、「予算案」を持ち、「練習時から子どもがマイクを握る」運動会。子どもの実行委員会が、教職員とも PTA とも、地域の団体とも対等の関係で練り上げていく運動会
- ・ 運動文化に触れ自治を養う。
- ・ 実行委員・係活動などで、自分たちで企画・準備・実行できる力「自治」を学ぶ
- ・ みんなでつくる（大人も子どもも）
- ・ 子どもが主体となり、運動会を創り上げる過程を学習の対象にできる。
- ・ 高学年を中心とした「自主的自治活動への意欲や力」を高める価値があるのではと思う。
- ・ 運動会という行事を通して、仲間と共に作り上げていく過程をくぐる中で、日常授業では得られない力を伸ばしていくことができる機会。

#### ③ 交流の場(異学年、地域)

- ・ 学年間の垣根を超え、学校における子ども間、教師間の一体感を味わうことのできる場として。
- ・ 体育学習の成果の交流
- ・ 学力関係なく教え合い・学び合いをしてお互いに高め合える
- ・ 異学年での交流・教え合い
- ・ 地域・保護者と学校、子どもたちが一堂に集い、子どもの発表を応援し、励ます。また、成長を互いに確かめ合う場になりうる場所。
- ・ 異学年交流の場
- ・ 「地域との共同」子どもの実行委員会が、教職員とも PTA とも、地域の団体とも対等の関係で練り上げていく運動会
- ・ 「体を通した集団での学びの場、つながりの場」
- ・ 「全校児童の運動を通した交流」は、子どもたちだけではなく、地域にとっては長い伝統行事であり、子どもたちだけではなく地域の人も含めて楽しみにしている人が多い。子どもたちの躍動する姿を見ることは、他学年にとっても、保護者や地域の方々にとっても、それぞれに貴重な思い出となり、それぞれにとって自身の成長などを振り返る貴重な機会となる。

#### ④ 学習したことを発表、表現する

- ・踊りを自分のものにしていく実感。
- ・「自分たちで創り出せる場」ということも言えるだろう。
- ・思いっきり体を動かし、自分の表現方法の幅を広げる。体の使い方を学ぶ。(団体演技)
- ・多様な実態の子どもたちが、身体表現としてのパフォーマンスをする場であり、それぞれの身体活動を「その子独自の体のこなし」として認め合う場ではないかと考えている。
- ・大勢の人前で堂々と演技ができる喜びや達成感を味わえる
- ・体育学習の成果の交流
- ・いろいろな人に魅せる」環境が、表現運動や競技の質、楽しみもしかり、高学年を中心とした「自主的自治活動への意欲や力」を高める価値があるのではと思う。
- ・子どもたちの日頃の練習の成果を発揮する場として。

運動会という行事を通して、仲間と共に作り上げていく過程をくぐる中で、日常授業では得られない力を伸ばしていくことができる機会。

#### (2) 相違点

##### ① 教科を横断する

- ・体育だけでなく、図工・総合・音楽など教科も多岐にわたるので、総合的・統合的な学びができる

##### ② 文化の継承(民舞など)

#### (3) 集約してみての感想

共通点が多いので同志会の先生は似た考えを持った先生の集まりだと思った。しかし、それは学びがあつての考えだから最初からそうではなかったかもしれないと思う。私自身、同志会の学びがなかったら、団体行動や、全員がしっかり合わせることといった、軍隊的な考えでいたから。もちろん上記の考えを初めから持っていた先生も多いと思うが、学びで確固たる確証には自分自身がなってきた。

運動会の価値を持っていて、そこをどう目の前の子ども、現場に合わせていくかは、とても悩ましい。まずは児童会担当、運動会担当にならないとそういった考えをベースで作っていけないから難しい。

#### 質問6. その他、質問など

##### (1) 共通点

①・**運動会というものを単なる一つの行事として位置付けるのではなく、教職員がその運動会の意味について話し合いをすることが必要なこと。**

・**それぞれの職場で話し合う機会を設けていき、それぞれの学校の意味での運動会を作っていくことが必要**

○本当に何も考えずに「コロナが広まっているから中止」という教育の在り方は、学校教育への、教育者として、教師の怠慢であるようにしか思えない。

○コロナ禍で起こった「運動会」の問題。ある意味「ピンチ」をしっかりと考える「チャンス」に変えたいと思います。』今までのある種、形骸化された運動会を問い直すきっかけにしたい。

- 1学期から提案・学びの準備をしていけば、運動会の価値に気づく人も出てくるのかなと思う。
- 職場で話し合う前には、すでに行政が介入した提案になっていることがほとんど。話し合うにしても、「もう決まっていること」として話し合いにすらならないこともあった。
- 学校行事としてどのように位置づけるのか？

## (2) 相違点

### ① 日常体育科と運動会種目の関係

→これまでの学校は、運動会シーズンは体育の時間を使って（それ以外に他多数時間を使っていることもある）練習しているが、あくまで運動会の為の練習に終始しているような気がする。日常の体育授業が運動会にも活き、また運動会が終わった後も日常の体育授業にも反映されていくような実践や取り組みがあれば知りたい。

## (3) 集約してみての感想(自らの考え)

今こそ時間がない中でも話し合いはとても必要だと思った。それは、目の前にいる子どもたちの願いを聞いてから、大人が動いていくことをしていかないと、子どもたちは「大人が勝手に決めた」や「どうせ先生が決めるんでしょ」といった、夢やわくわくの無い状態に子どもたちになってしまいう可能性がある。先生たちの運動会の価値も持っておくのはとても大切だが、子どもたちがここまで望まない（望むようにしかけることが一番だが）となったら考えようだなと思った。